

薬剤の変更を提案することで経管チューブ閉塞を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、簡易懸濁不適な薬剤について、他剤に変更を提案することで経管チューブの閉塞を回避できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶心室中隔欠損症の治療目的で入院された患儿
経管チューブにて薬剤投与中

【内服薬】

低カリウム血症に対してカリウム製剤の内服が開始予定

Gさん



Gさんにカリウム製剤の内服が再開予定となっている。前回アスパラカリウム散で経管チューブが閉塞したことがあった。



薬剤師

アスパラカリウム散は簡易懸濁が不適な薬剤であり、前回経管チューブが閉塞したことがあるようです。チューブの通過が良好なグルコン酸カリウム細粒への変更はいかがでしょうか^{※1}。



医師

それではグルコン酸カリウム細粒に変更しましょう。切り替える際の用量の目安はありますか。

ありがとうございます。切り替える際の確定された換算式はありませんが、常用量対比から計算する方法があります。換算比の目安は、グルコン酸カリウムの mEq 量 $\times 0.4 =$ アスパラカリウムの mEq 量となります^{※2}。



薬剤師

グルコン酸カリウム細粒に変更後、投与期間中チューブの閉塞なく経過し、1週間後にカリウムの補正が終了し、投与中止となった

薬剤変更を提案することで、経管チューブ閉塞の再発を回避でき、治療効果の向上に寄与できた。

※1 内服薬 経管投与ハンドブック-簡易懸濁法可能医薬品一覧- 第4版(じほう)を参考

※2 ニプロESファーマ株式会社 HP, Q&A 一覧「他のカリウム製剤(経口剤)からアスパラカリウム製剤(経口剤)へ切り替える際の換算量は？」を参考